



クマノザクラ

# 「やまびこ通信」

第20号 令和7年3月発行



ヤマザクラ

## ■ 令和6年度を振り返って

今年も昨年と同様2月に成果発表会を対面形式で開催でき、正直ホッとしています。

やはり、対面での会場開催は参加者皆様からのご質問やご意見に、発表者もその場で回答することで資質向上につながります。WEB配信ではなかなかこの臨場感を体験できないとあらためて実感しました。これからも対面での開催を継続していきたいと思えます。

今年度は4月早々岸本知事の当场視察に始まりました。（詳しくは第19号参照）

6月には、関西地区林業試験研究機関連絡協議会（関西林試協）育林育種環境部会が平成20年以来16年ぶりに本県で開催されました。開催県が議長として、関西、中国、四国地区の公設試験研究機関21機関39名の参加のもと、個別課題等の質疑応答や情報交換が活発に行われ、有意義な部会となりました。また、9月には関西林試協の第77回総会が石川県金沢市（現地視察：輪島市）で開催されました。なお、第78回総会が令和7年9月に平成17年以来20年ぶりに本県で開催する予定です、関係者の皆様にはご協力のほどよろしくお願ひします。

また、令和7年度の新規研究テーマの募集が6月から始まり会場にも多くの提案をいただきました。場内各部において、提案された36課題を検討した結果4課題を11月の林業技術開発推進協議会でご協議いただき、最終的には3課題を提案することとしました。なお、本年3月に開催される外部委員による評価委員会（2次審査会）にて農林水産部全体で16課題が提案され採択課題が決定します。3課題を提案する研究員は場内においてプレゼン練習を重ね、すべての課題採択を目指して審査会本番に備えています。

私事ですが、この3月末をもって退職となります。昭和63年4月林業センター（現林業試験場）を振り出しに11年間勤務し、その後振興局や県庁各課（通算19年間）を異動し、平成30年から2度目の試験場勤務となり通算18年間お世話になりました。あらためて皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

引き続き、当場の運営にご支援いただきますとともに、試験研究業務へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（場長 東山 貢）

## ■ 令和6年度成果発表会 発表内容

令和7年2月14日に上富田文化会館において、令和6年度成果発表を開催し、以下のとおり、5課題の「口頭発表」と各部毎に「ポスター発表」も行いました。

また、当日参加できなかった方にも視聴してもらうため、発表課題ごとに「口頭発表」を動画に収録し、「YouTube」にて3月28日まで配信しています。まだ視聴可能ですので、以下、課題毎に記載しています URL・QRコードからアクセスし、この機会に是非、ご視聴願ひします。

なお、ご質問等があれば、発表者へ直接、電話・メール等でお願ひいたします。

### ◆口頭発表（要約）

#### ◎「遺伝分析によるクマノザクラの雑種判定」

<https://youtu.be/vtO3d6Hm5oI>

経営環境部 研究員 松久保 康輔

クマノザクラは新たな地域資源、観光資源として期待されています。

しかし、雑種苗が普及すると遺伝子汚染が発生する恐れがあり、雑種苗を除くためには若木段階での雑種の特徴を明らかにする必要があります。そこで遺伝分析による雑種個体の判定を行い、自生する5本のクマノザクラから採種した苗180本のうち8本が雑種個体と判定でき、簡便な雑種判定に寄与する知見が得られました。



多様性が高い（左：小ぶり、中：花多い、右：フリル状）

#### ◎「和歌山県下から収集したクマノザクラの開花・成長特性」

<https://youtu.be/Mof3kMvcbg4>

経営環境部 主査研究員 山下 由美子

クマノザクラの優良系統を選抜するため、県下各地の優良と思われる候補木を収集・増殖し、同一地に植栽した後、開花状況を調査しました。本県のクマノザクラには、開花時期が非常に早い個体、遅い個体、開花期間が長い個体、幼齢で着花数が多い個体があることが分かりました。これらの情報は、特徴のあるクマノザクラの選抜に貢献するだけで



なく、花色や開花時期といった多様な観賞ニーズに対応できることを示しています。



那智勝浦町の個体

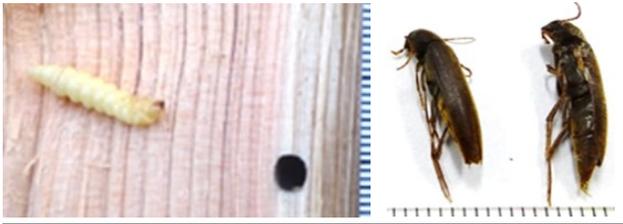
◎「山土場等でヒノキ皮付き丸太に穿孔する害虫」

([https://youtu.be/Ex\\_qhqUJMcg](https://youtu.be/Ex_qhqUJMcg))



経営環境部 主任研究員 法眼 利幸

通年伐採の増加にともない、山土場等に集積された材に穿孔性害虫による被害が多発しているため、ヒノキ皮付き丸太に産卵する種と孔道の深さ等を調査しました。7～10月に森林に1ヶ月置いた材にキイロホソナガクチキムシの幼虫が多くみられ、材の深いところまで穿孔していました。山土場では本種の産卵に注意する必要があると考えられました。



キイロホソナガクチキムシ（左：幼虫と孔道、右：成虫）

◎「県産スギ・ヒノキ原木の強度性能評価における簡易測定値の適合性」

(<https://youtu.be/8fPIFXHouk8>)



木材利用部 研究員 栗田 香名子

簡易型強度測定器を用いた原木ヤング係数の測定を行い、①密度を一定としてメートル未満の材長を考慮せずに計算したヤング係数と、②実際の密度および材長を考慮して計算したヤング係数を比較したところ、簡易ヤング係数の方が安全側の低い数値となる傾向がみられました。

この結果を活用することで、簡易な方法による原木の強度性能に応じた選別に寄与することが期待されます。



左：測定状況、右：測定器

◎「ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」の防除技術について」

特用林産部 主任研究員 田中 作治

本県で生産量の多い花木ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」について、これまで効果のある殺菌剤を明らかにしてきました。防除効率を上げるため薬剤の散布間隔延長と回数削減した結果、一部の枝葉で罹患部の拡大が見られました。

今後、これまでの試験研究結果を取りまとめ、施業と薬剤散布によるヒサカキ「枝葉枯れ症状」防除マニュアルを作成する予定です。



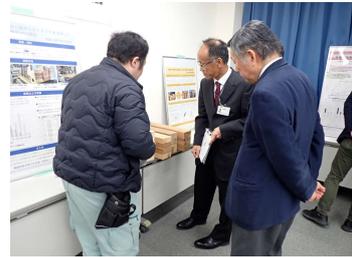
枝葉枯れ症状

◆ポスター発表

口頭発表以外にも研究成果をポスター等で展示し、来場者の質問等に応えました。

接着重ね梁、クビアカツヤカミキリの標本、クマノザクラ、ヒサカキの病害、マタタビの挿し木苗、アセビ出荷サンプル、特に、参加者の注目を浴びていた近畿大学と共同研究を行っているヒダリマキガヤの苗木など、現物資料の展示は好評でした。

見て・触れることで研究成果をより身近に感じていただけたと思います。



研究成果の説明



ヒダリマキガヤ

\*\*\*\*\*

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

\*\*\*\*\*

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。